

シ 1 5 発 第 6 号
平成 1 6 年 3 月 3 1 日

外 務 大 臣 殿

社団法人シャンティ国際ボランティア会
会 長 松 永 然 道

平成 1 5 年度国際開発協力関係民間
公益団体補助事業完了実績報告書

平成 1 5 年 1 0 月 7 日付第 2 5 9 号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第 1 4 条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

- 1 , 補助事業の名称 1 0 . 地域総合振興事業
 - 2 . 人材育成事業 (2) 貧困地区学習援助事業
 - 9 . 民間援助物資輸送事業 (タイ)
- 2 , 補助金の交付決定額及びその精算額 (別紙のとおり)
- 3 , 補助事業の実施期間 平成 1 5 年 7 月 1 日 ~ 平成 1 6 年 2 月 2 9 日
- 4 , 補助事業の成果

. 2 . 人材育成事業 (2) 貧困地区学習援助事業

1 . 図書館活動・研修事業

(1) コミュニティー図書館の運営

コミュニティー図書館

コミュニティー図書館は、バンコクスラム地区 3 館 (クロントイ区 70 ライ、サトーン区スアンプルー、ヤワナー区チュアパーン) と、地方 2 館 (ルーイ県チェンカーン郡、スリン県ムアン郡バンサイ村) の計 5 館を運営している。蔵書数 25,802 冊、貸し出し冊数が、36,777 冊、会員数は 2,720 名、利用者延べ数は 80,266 名であった。各図書館の蔵書は、子ども向けの図書が 80%、大人向けの図書が 20% であり、すべての住民に公開されている。

図書館の開館時間は、平日 8:30-18:00、土日・祝日 9:00-17:00 となっている。活動内容としては、図書の貸し出し (会員制)、新聞、雑誌の閲覧、紙芝居、おはなしの読み聞かせ、子

どもを対象としたあそびやゲーム、語学教室、お絵かき、ぬり絵、ゲーム、リズムあそび、工作、おりがみなどの日常的な活動を行った。特別な活動としては、サマーキャンプ、フェスティバル、遠足（動物園）を実施したり、年3回の図書館を利用する子どもたちの保護者を対象にした会議、伝統舞踊や楽器教室などの伝統文化継承活動、タイの祝日に合わせた特別文化行事の開催した。

センター的役割を果たすクロントイスラムの図書館では、2003年12月17日、国際交流基金バンコック日本文化センターの協力により、文化庁「文化交流使」の1人として選ばれた落語家、笑福亭鶴笑氏による寄席芸を催した。160名以上の子ども達が人形を使ったオリジナルティーあふれるパペット落語、玉すだれ、紙切りを楽しんだ。他にも週末に、日本人ボランティアによる折り紙や語学講座など、多様な文化交流プログラムが行われた。

地域ぐるみの子育て推進、保護者の図書館活動への理解、地域住民とのつながりを深めるため、バンコク、クロントイスラムの図書館では、図書館にやって来る子どもとその家族が参加する「親子の会」を、特別行事に合わせて計3回実施した。スラムや農村の貧困地区では、両親が初等教育しか受けておらず、読書の機会に恵まれていないため、図書館活動の重要性を理解することが難しい。そのため、この会は保護者にとって、図書館に対する理解を深め、さらに子育てへの関心を高めることにも役立っている。今後は各地域の図書館にて開催する予定である。以下に開催した「親子の会」について報告する。

第1回 2003年8月9日 母の日（12日） 参加者 65名 （大人13名、子ども52名）

講師：Ms. Sasinan Ninchan

（ドゥアン・プラティーブ財団保育園 幼児教育開発部専門教師）

子どもに愛情を与えること

子育てのヒント（おかしとの与え方、テレビの見方）

子ども質問コーナー

親子活動： おはなしの読み聞かせ、ぬりえ、歌、ゲーム

第2回 2003年11月8日 参加者 73名 （大人10名、子ども63名）

ゲストスピーカー： Ms. Tanyapon Sawadiisuk（住民主婦）

親子灯籠作り

ローイカトンの歴史、昔話、踊り

第3回 2003年12月5日（父の日） 参加者 90名 （大人6名、子ども84名）

講師： Mr. Wanlop Hirigun（クロントイ区70ライ・住民委員会役員）

男性、夫の子育て協力の推進

麻薬・覚せい剤から子どもを守る ～予防する方法～

地域住民の団結の重要性について

親子活動： 子どもによる伝統舞踊・音楽の披露・父の日プレゼント交換ゲーム

第3回の親子の会終了時に、保護者を対象に図書館が子どもに与えている影響に関するア

アンケート調査を実施した。保護者が挙げた家庭での子どもたちの様子について、想像力豊かになった、思考能力が高まった、言葉の使い方が上手になったということが挙げられた。また、母親に読み聞かせをしてもらうのが好きになった、子どもが母親におはなしを聞かせるようになった、好きな絵本を自分で選ぶようになった、などの絵本の読み聞かせによる影響もみられた。

表-1.2003年 図書館利用状況

図書館所在地	蔵書数	貸出図書数	会員	利用者
クロントイスラム	6,371	2,992	511	19,352
スアンプルースラム	5,384	5,002	513	15,547
チュアパースラム	6,804	3,127	481	19,505
スリン県ムアン郡バンサイ	4,717	17,766	508	19,807
ルーイ県チェンカーン郡	2,526	7,890	707	6,055
合計	25,802	36,777	2,720	80,266

伝統文化活動

当会の運営する各コミュニティー図書館では、地域文化に根ざした伝統文化継承活動の一環として、伝統舞踊教室を実施している。

東北タイ・チェンカーン郡にあるコミュニティー図書館では、芸術大学の舞踊学部を卒業したタチャパンスタッフが、舞踊の指導にあたっている。現在小学校から中学生の18人が伝統文化教室に登録しており、週2回の練習に励んでいる。生徒たちは地域ぐるみの活動にも積極的に参加しており、今年度はオークパンサー(仏教の日)、麻薬撲滅キャンペーン、東北タイ青年祭や花祭り等に参加し、伝統舞踊を披露した。中でも優秀な生徒は、チェンカーン中高等学校の舞踊クラブの講師としても活躍している。

このような地域活動の機会を得て、舞踊を習う子ども達は、伝統を重んじ、社交性や自信を身に付けている。また図書館の文化活動を通じて、郡の役場や学校等、地域との信頼関係を築いており、図書館事業の広報・普及もなされている。

アンケート実施

コミュニティー図書館(全5館)の利用者87人(5~17歳)を対象に、アンケートを実施した。図書館利用年数を合計すると、5年以上が31人(35.6%)と最も多く、利用回数も週に4回~6回以上の利用を合わせると48人(55%)で、利用頻度が高いことが伺える。また、78人(89.6%)が、図書館スタッフとサービス全般に関して、「よい・非常によい」と評価し、80人(90%)が、図書館は「大切・非常に大切である」と答えた。また本を好きになった理由として「図書館活動を通じて」が42人(48.2%)と最も多かった。

表-2. アンケート結果

1. 性別	女	67	6. 本が好きですか?	はい	83
	男	20		いいえ	4
2. 図書館利用年数	1年未満	10	7. どんなきっかけや影響で本を好きになったか?	図書館活動を通じて	42
	1-2年	20		学校や先生	23

	3 - 5 年	22	なつたと思ひますか？ (83 人)	家族	17
	5 年以上	31	8. 図書館で行っている活動で好きな活動を挙げてください。(複数回答)	ゲームや遊び	42
3. 利用回数/週	0-1 回	4		人形劇	12
	2 回	7		音楽・楽器	19
	3 回	13		伝統舞踊教室	49
	4 回	15		語学教室	13
	5 回	19		文化交流・イベント	20
	6 回以上	29		課外学習活動	27
4. 平均何冊本を借りますか/月？(複数回答)	0-5 冊	42	9. 図書館スタッフを評価してください。	よくない	0
	5-10 冊	26		あまりよくない	5
	10-15 冊	6		満足	4
	15 冊以上	11		よい	41
5. 図書館に来る目的は何ですか？(複数回答)	読書	72	10. 図書館サービスを評価してください。	非常によい	37
	友人と遊ぶ	34		よくない	0
	伝統舞踊教室	57		あまりよくない	4
	語学教室	22		満足	3
	ゲームやあそび	60		よい	38
	友人の誘い	3		非常によい	40
			11. 図書館は自分にとって大切な場所だと思いますか？	大切ではない	0
				ある程度大切	6
				大切である	32
				非常に大切である	48

(2) 移動図書館活動

「おはなしキャラバン」活動

貧困地区を対象に、絵本、紙芝居、人形劇、様々なゲーム・遊びのセットを積んだ移動図書館車が、スラム地区、地方農村の保育園、小学校等を巡回し、絵本の読み聞かせや人形劇の上演をする。「おはなしキャラバン活動」は、子どもにおはなしの楽しさに触れる機会を提供するだけでなく、保育士のための実演指導としても活用され、図書サービス対象の保育園及びその周辺地域において実施した。

午前中に行われる保育園での活動は 126 回、夕方の他スラム地域にての活動を 67 回実施した。その他 36 回は、地方対象地域や、その周辺村の保育園、学校、集会場での公演や、SVA ミャンマー難民キャンプ支援への協力事業など、他団体や住民組織からの要請事業が含まれる。受益者は 38,905 名、活動回数は 229 回であった。

8 月 25 日には、コンケン県チェンユン郡にて、図書館開館式の特別記念公演を実施した。この図書館は、教育開発支援活動を行っているタイの非営利組織「サンサントイ協会」の支援により建設されたもので、サンサントイ協会から幣会の図書館チームが招待を受け、式典に参加した。開館式後に地域や学校施設にて、おはなしキャラバン活動を 2 回実施し、小学生 300 名、150 名の保育園児、保護者 100 名(計 550 名)の参加があった。この様子は TV チャンネル 11

ニュースの時間にも放送され、広報や図書館ネットワークづくりの強化につながった。

おはなしキャラバンの活動内容（所要時間 2 時間）

1. 図書館車を公開、読書時間を設ける（貸し出しなし）
2. ゲーム、歌、クイズ等のあそび
3. 絵本、紙芝居の読み聞かせ
4. 人形劇上演

表-3. おはなしキャラバン活動 実施回数

移動図書館活動地域	回数
バンコク都 44 区スラム保育園	126
バンコク都 44 区スラム地区	67
その他	36
合計	229

図書箱サービス

幼児期の子どもに、優れた良書に触れる機会を提供するため、そして保育士に絵本の大切さを理解してもらうことを目的に、対象地域及びその周辺地区の、絵本が不足するスラムや農村の保育園へ、図書箱の貸し出しを行った。図書箱には、絵本 50 冊（地方一部を除いて）と、絵本を入れるポケット付きの折りたたみ式の布袋を収納している。これにより、スペースのない保育園でも、図書室と同様の環境をつくるのが可能である。図書箱の交換は各地域のスタッフが 3 ヶ月毎に行い、絵本の扱い状態を確認したり、おはなし活動に関する、保育士（約 600 人）の個別指導にあたった。図書箱の利用園児数は、135 ヶ所の保育園で、7,340 名であった。

表-4. 図書箱サービス実績

地域	巡回図書箱	図書数 / 箱	図書数	保育園数
バンコク	60	50	3,000	57
スリン県	16	50	800	16
ルーイ県	34	16	544	34
パヤオ県	20	18	360	28
合計	130	134	4,704	135

（3）保育士ワークショップ

ワークショップの内容

幼児教育や初等教育の現場で、「おはなし」活動を取り入れることは、教育の質を改善するために有効な方法の一つであり、その機会を子どもに提供するには、日常子どもに接する教育者の能力が求められる。このワークショップは、幼児・初等教育に携わる教員の意識改革、スキルアップを目的とした研修事業で、計 3 回各地で実施し、参加者は計 140 名であった。

対象地域及び周辺地区保育士を対象としたワークショップをはじめ、SVA ミャンマー難民キャンプ支援事業との関連で、難民キャンプ周辺にある農山村の小学校教員を対象としたワーク

ショップも実施した。

研修項目は以下3項目から、各対象者のニーズに対応したプログラム内容をそれぞれ実施した。

1. おはなしの読みきかせ（絵本の意義についての理論、テクニック）
2. 子どものレクリエーション（遊び、ゲーム、歌の紹介）
3. 教材づくり（図書館や教室の装飾の仕方、ボードづくり、子どもと楽しめる工作など）

表-5. ワークショップ実施詳細

	月 日	タイトル	対象者	参加人数	実施場所
1	11月20-21日	絵本の読み聞かせ理論・テクニック	小学校教員	39	タ-ク県 メ-ソット郡
2	12月22日	絵本の読み聞かせ理論・テクニック	保育士	65	パヤオ県 ボン郡
3	12月24日	絵本の読み聞かせ理論・テクニック	保育士	36	チェンライ県 ウィアンパパオ郡
		合計		140	

研修後のアンケート実施

上記のワークショップ参加者からのアンケートの感想

- 講師に専門知識が豊富にあり、ゲームや歌を通して、子どもとの接し方など現場で使えるテクニックを教えてもらった。研修時間が足りなかったように思う。ぜひ次回も参加したい。（バンコク都スラム地区 保育士 27歳）
- 絵本や子どもとの活動など、役に立つ知識を得ることができた。（ルーイ県チェンカーン郡保育士 22歳）
- 内容がとても実用的で役に立つよい研修だった。説明もわかりやすく、楽しめた。（メ-ホンソン県・ソップム-イ郡小学校教員 30歳）
- 講師（スタッフ）の方々が、とても親近感をもって接してくれ、感激した。楽しく、そして役に立つ活動、知識をたくさん教えていただいた。参加できてうれしい。また人形劇の研修をぜひ受けたい。（バンコク都スラム地区 小学校教員 34歳）
- 周辺の保育士と知り合え、交流がもててうれしかった。絵本の読み聞かせ、ゲーム、歌、人形劇など、とても役に立つ内容だったので、今後もっと研修を開催してほしい。（パヤオ県ボン郡保育士 21歳）

研修後の評価活動

研修終了後（6ヶ月以降）、再度アンケート調査を実施し、活動評価を行った。

回答者50人（ルーイ県チェンカーン郡周辺 25人/バンコク・スラム地区 25人）

表-7. 評価結果一覧

1. 性別	女	43	3. 絵本の読み聞かせをしている	はい	50
	男	2		いいえ	0
2. 年齢分布	20歳以下	3	4. 読み聞かせの頻度	毎日	16
	20-29歳	20		週3回以上	25
	30-39歳	15		週3回以下	9

	40-49 歳	10	5. 研修で学んだことを、活用できていますか？	はい	40
	50 歳以上	2		いいえ	10
			6. 活用頻度	多い	27
				普通	17
				少ない	6

参加者へのアンケート内容についての回答

質問) ワークショップで学んだことはどんなことでしょうか。(自由回答)

1. 保育時間に、いろいろな活動を行えるようになった。
2. 部屋の飾りやボード作りが上手になった。
3. ゲームや歌を子どもに教えられるようになった。
4. 子どもが好きな活動やその手法が理解できるようになった。
5. おはなしのテクニックを得た。
6. 就学前教育の基礎知識を身につけた。
7. (保育士が)創造力を働かせるようになった。
8. 以前より、おはなしの読み聞かせを日々の活動に多く取り入れるようになった。
9. 以前より、子どもを理解できるようになった。
10. おはなし活動を教育の一環として取入れ、心がけるようになった。
11. 子どもが集中するようになった。
12. 子どもが表現力豊かになった。
13. 年齢層に適した絵本やおはなしの仕方があることを理解できた。
14. 楽しく仕事ができるようになった。

アンケート結果から、ワークショップに対する評価は、研修内容、講師などを含め、高い評価を受け、保育士の感想からも、ワークショップ実施の需要の高さが明らかになった。また 6 ヶ月以降のアンケート調査結果からも、半数以上の保育園で、おはなしの読みきかせが実践されていることがわかった。ワークショップに参加した保育士が、研修で学んだことを活用し、保育の質の改善につながっていることが伺える。

(4) 情報提供

電話相談窓口サービスの広報が円滑に行われなかったため、図書館に関する情報提供は、十分にされなかった。そのため、ニュースレターを 1,000 部発行し、対象地域の保育園や、関係団体に配布した。ニュースレターの内容は、移動図書館活動報告、保育士ワークショップ報告、推薦児童図書紹介などである。

・民間援助物資輸送事業

1. 難民キャンプ、貧困地区への防寒着配布事業

SVA の全国 14 ヶ所の地域協力団体に協力によって、「ミャンマー難民に冬物衣類を贈る運動」(外務省後援事業)を実施し、目標の 17 万着の冬物衣類を 10 カ所の難民キャンプならびにキャンプ周辺の貧困村に送った。バンコク港から各対象地キャンプへの輸送にあたっては、BBC (Burmese Border Consortium) の協力を得た。キャンプに輸送されてからは、各キャン

プの難民委員会が各世帯に配布した。BBCおよびSVAがモニタリングを行った。各対象地への配布数、実施スケジュールは以下の通り。

(1) 難民キャンプへの配布一覧表

県名	メーホンソン県				
キャンプ名	バンマ付イイ		バンヌリン	メコンカ	メマムン
ダンボール箱数	1,015		193	952	658
衣類点数	19,021		3,623	17,836	12,335
内訳	大人用衣類		大人用衣類	大人用衣類	大人用衣類
	14,541		2,759	13,644	9,423
	子供用衣類		子供用衣類	子供用衣類	子供用衣類
	4,480		864	4,192	2,912
県名	ターク県			カンチャナブリ県	ラチャブリ県
キャンプ名	マ	ウピム	ホ	バンドン	タム
ダンボール箱数	2,510	1,068	698	204	513
衣類点数	47,036	20,010	13,076	3,821	7,345
内訳	大人用衣類		大人用衣類	大人用衣類	大人用衣類
	35,964		15,306	10,004	2,925
	子供用衣類		子供用衣類	子供用衣類	子供用衣類
	11,072		4,702	3,702	896
				896	2,272

(2) 難民キャンプ周辺のタイの村への配布一覧表

	メーホンソン県	ターク県	カンチャナブリ県	ラチャブリ県
ダンボール箱数	612	452	56	95
衣類点数	11,817	8,898	1,100	1,810

(3) 配布までのスケジュール

- 2003年2月 日本各地の代表者と事業実施の計画会議
- 2003年3月 衣類募集の広報開始
- 2003年4月～6月 衣類の広報 収集 梱包(全国10か所にて)
- 2003年9月～10月 秋の衣類収集 梱包(全国3か所にて)
- 2003年11月 船便でタイ・バンコクへ輸送
- 2003年12月 バンコクへ衣類到着 難民キャンプにて衣料配布
- 2004年 1月 現地へのモニタリングツアー実施